

発行/伊勢原市 編集/広報戦略課  
〒259-1188 伊勢原市田中348番地  
☎0463-94-4711(代)  
☎0463-93-2689



伊勢原市は令和3年3月1日に市制施行50周年を迎えます

市公式ホームページ 伊勢原市 検索  
「いせはら 暮らし安心メール」の配信登録や閲覧は、市ホームページから



おもな記事 ● 2面・・・新型コロナウイルス感染症に関するお知らせ ● 4・5面・・・#なかなかいいなかいせはら 発信中 発行部数/39,700部



# 日々は大山

春が終わりにさしかかり、木々の若葉が輝きを増すこの時季。新緑のシーズンを迎えた大山に、一人で登り続ける人がいます。

◇ 神田明治さん(板戸・75歳)が登山を始めたのは50代のころ。最初の目的は、マラソンのトレーニングでした。

「会社の健康診断で引っかけかかってしまい、体重を落とそうと、同僚のグループに交じってマラソンを始めました。長距離を走る持久力をつけるために、身近にある大山へ登るようになったんです」。以来20年以上かけ、昨年8月に登頂1500回を達成しました。



冬の山頂から(神田さん撮影)

### 全て自分の足で

普段から、車はなるべく使わないようにしているという神田さん。大山登山も、自宅から山頂までの約12kmの距離を全て歩いていきます。午前7時ごろ家を出発。大山

阿夫利神社下社を経て、山頂まで一気に登りきります。そのペースは、登山仲間の女性が「一緒に歩くと、ついていけない」と舌を巻くほどです。

山頂に着くとすぐ下山を始め、午前11時過ぎには、こま参道にある行きつけの食堂で昼食をとるのが日課になっています。

「マラソンも「コツコツ型」今では趣味となったマラソンも、好きなのは通常より長い時間・距離を走るウルトラマラソンです。「自分のペースで走れるのに向いている」と感じています。北は北海道、南は沖縄まで全国各地の大会に出場。野辺山(長野

県)で行われる大会では、過去に数人だけという20回連続完走を果たしました。地元の大山大山マラソン大会にも何度も参加しており、登山の際は、あえて当日のコースとなる女坂を使っています。

原動力は、山と仲間 毎日のように登っていても、大山は全く飽きることがないといえます。

「季節や日によって、山の表情は全然違います。富士山が見えたときは、やっぱりテンションが上がりますね(笑)。冬は空気が澄んでいるので、特にきれいですよ。

継続の秘訣は仲間の存在。山で知り合った人とは、フェイスブックやブログなどのSNSでも交流しています。ブログでは、山での出来事をその日に更新しており、登山の参考になっている読者も多いそうです。「山に行けば自然と仲間ができる。だからここまで続けられています」と、穏やかな笑顔で語ってくれました。

日々は大山。神田さんは、今日も歩を進めます。



なじみの食堂で、登山仲間やお店の皆さんと

## 新型コロナウイルス感染症の拡大防止に向けた市長メッセージ

市民の皆さまには、日ごろから新型コロナウイルス感染症の拡大防止に多くのご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

4月に政府より発令された、新型インフルエンザ等対策特別措置法に基づく「緊急事態宣言」を受け、市では同法に基づき「伊勢原市新型コロナウイルス感染症対策本部」を設置しました。

今回の緊急事態宣言については、皆さまも不安をおもちのことと思います。市としても引き続き、国・県と連携しながら全力で対策に取り組んでまいります。

重ねてのお願いとなりますが、引き続き次の対策を徹底していただくようお願いします。

1. 不要不急の外出を控える
  2. 「密閉」「密集」「密接」の「3つの密」を避ける
  3. 小まめな換気、うがい、手洗い、せきエチケットを徹底する
- 今が感染拡大を防ぐ正念場です。ご自身や大切な方の健康を守るため、一丸となってこの局面を乗り越えていきましょう。

伊勢原市長 高山 松太郎

新型コロナウイルス感染症に関するお知らせは2面をご覧ください